



エンド ユーザの設定

次のトピックでは、エンド ユーザ ディレクトリ情報の管理について説明します。

- 「エンド ユーザの設定値」 (P.88-1)
- 「Cisco Unity Connection ボイスメールボックスの作成」 (P.88-9)
- 「エンド ユーザのパスワードの変更」 (P.88-10)
- 「エンド ユーザの PIN の変更」 (P.88-11)
- 「エンド ユーザのクレデンシャルの管理」 (P.88-11)
- 「クレデンシャルの設定値とフィールド」 (P.88-12)
- 「エンド ユーザのユーザ関連情報の設定」 (P.88-13)
- 「エンド ユーザとデバイスとの関連付け」 (P.88-15)
- 「Cisco エクステンション モビリティ プロファイルの関連付け」 (P.88-17)
- 「関連項目」 (P.88-17)

エンド ユーザの設定値

Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、[ユーザ管理 (User Management)] > [エンド ユーザ (End User)] メニュー パスを使用して、エンド ユーザを設定します。

Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [エンド ユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウを使用すると、システム管理者は、Cisco Unified Communications Manager のエンド ユーザに関する情報を追加、検索、表示、および保持することができます。[エンド ユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウで電話機を関連付けた後は、エンド ユーザが電話機を制御できます。

エンド ユーザの設定のヒント

エンド ユーザの設定を開始する前に、次の情報を参照してください。

- [LDAP サーバからの同期を有効にする (Enable Synchronizing from LDAP Server)] チェックボックスがオンかどうかを確認するには、[システム (System)] > [LDAP] > [LDAP システム (LDAP System)] の順に選択します。このチェックボックスがオンになっている場合、LDAP 同期化は有効になっています。オンになっていない場合、LDAP 同期化は無効になっています。

- Cisco Unified Communications Manager の管理ページで LDAP 同期化を有効にする場合、それにより、LDAP 社内ディレクトリを Cisco Unified Communications Manager のエンド ユーザ ディレクトリとして使用するようにシステムを設定します。このシナリオでは、Cisco Unified Communications Manager の管理ページでユーザを追加または削除できません。社内 LDAP ディレクトリでエンド ユーザを追加および削除します。
- Cisco Unified Communications Manager の管理ページで LDAP 同期を使用可能にしている場合は、既存のユーザ情報（ユーザ ID など）の変更を [エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウで行うことはできません。代わりに、社内 LDAP ディレクトリを使用してユーザ情報を更新する必要があります。
- LDAP ディレクトリを使用してユーザを認証するようにシステムを設定した場合、Cisco Unified Communications Manager の管理ページではエンド ユーザ パスワードの設定または変更ができません。社内 LDAP ディレクトリでエンド ユーザ パスワードを設定および変更してください。
- Cisco Unity Connection で Cisco Unity Connection ユーザをインポートできます（該当する『*User Moves, Adds, and Changes Guide for Cisco Unity Connection*』を参照）。または必要に応じて、[エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウの [Cisco Unity ユーザの作成 (Create Cisco Unity User)] オプションを使用して、Cisco Unity Connection ユーザと同様に Cisco Unified Communications Manager の管理のエンド ユーザを設定できます（「Cisco Unity Connection ボイスメールボックスの作成」(P.88-9) を参照）。その後は、その他の設定値を Cisco Unity Connection の管理で設定できます。



(注) エンド ユーザの Cisco Unity Connection ボイスメールボックスを作成する前に、エンド ユーザの電話デバイスへの関連付けとプライマリ内線を設定し、Cisco Unified Communications Manager と Cisco Unity Connection の間の統合を完了させておく必要があります。詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager SCCP Integration Guide for Cisco Unity Connection*』または『*Cisco Unified Communications Manager SIP Trunk Integration Guide for Cisco Unity Connection*』を参照してください。

エンド ユーザの設定の次のステップ

このエンド ユーザにデバイスを関連付ける場合は、後述の「[エンド ユーザとデバイスとの関連付け](#)」の手順に進みます。

このエンド ユーザのクレデンシャルを管理する場合は、後述の「[エンド ユーザのクレデンシャルの管理](#)」の手順に進みます。

Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、このユーザの Cisco Unity Connection ボイスメールボックスを作成する場合は、後述の「[Cisco Unity Connection ボイスメールボックスの作成](#)」(P.88-9) の手順に進みます。

エンド ユーザの削除のヒント

エンド ユーザを削除する前に、そのエンド ユーザに関連付けられているデバイスまたはプロフィールを削除する必要があるかどうかを判断します。

[エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウの [デバイスの割り当て (Device Associations)]、[エクステンションモビリティ (Extension Mobility)]、[電話番号の割り当て (Directory Number Associations)]、[CAPF 情報 (CAPF Information)]、および [権限情報 (Permissions Information)] の各領域から、エンド ユーザに割り当てられているデバイスおよびプロフィールを表示できます。[エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウで、[関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスから [依存関係レコード (Dependency Records)] を選択することもできます。依存関係レコードがシステムで使用可能になっていない場合、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます。依存関係レコードの詳細については、「[依存関係レコードへのアクセス](#)」(P.A-2) を参照してください。

エンドユーザの削除の次のステップ

このユーザが Cisco Unity Connection で設定されていた場合、Cisco Unified Communications Manager の管理ページでユーザを削除すると、Cisco Unified Communications Manager とユーザとの関連付けが破棄されます。孤立したユーザは、Cisco Unity Connection の管理で削除できます。詳細については、該当する『*User Moves, Adds, and Changes Guide for Cisco Unity Connection*』を参照してください。ユーザを削除すると、そのユーザのボイスメールボックスにあるすべてのメッセージが削除されます。

GUI の使用方法

Cisco Unified Communications Manager の管理の Graphical User Interface (GUI; グラフィカル ユーザ インターフェイス) を使用してレコードを検索、削除、設定、またはコピーする方法については、「[Cisco Unified Communications Manager の管理アプリケーションでの操作](#)」(P.1-13) およびそのサブセクションを参照してください。GUI の使用方法とボタンおよびアイコンの機能の詳細が説明されています。

設定値表

表 88-1 では、エンドユーザの設定値について説明します。関連する手順については、「[関連項目](#)」(P.88-17) を参照してください。

表 88-1 エンドユーザの設定値

フィールド	説明
[ユーザ情報 (User Information)]	
[LDAP 同期状態 (LDAP Sync Status)]	このフィールドには、[システム (System)] > [LDAP] > [LDAP システム (LDAP System)] メニュー オプションで設定した、LDAP 同期の状況が表示されます。
[ユーザ ID (User ID)]	<p>エンドユーザの固有の識別名を入力します。任意の文字（英数字や特殊文字を含む）を入力できます。このフィールドには文字に関する制限はありません。</p> <p>LDAP サーバとの同期が使用可能でない場合に限り、ユーザ ID を変更できます。同期が使用可能である場合、ユーザ ID を表示できますが、変更はできません。</p> <p>同期が使用不可の場合、Cisco Unified Communications Manager では、作成後にユーザ ID を変更できます。</p>
[パスワード (Password、半角英数字のみ)]/[クレデンシャルの編集 (Edit Credential)]	<p>このフィールドは、LDAP 認証が使用可能な場合、表示されません。</p> <p>エンドユーザ パスワードとなる英数字または特殊文字を入力します。割り当てられたクレデンシャル ポリシーで指定されている、最小文字数（1 ～ 127 文字）以上を入力する必要があります。</p> <p>[クレデンシャルの編集 (Edit Credential)] ボタンは、このユーザをデータベースに追加した後で表示されます。このユーザのクレデンシャルを管理するには、[クレデンシャルの編集 (Edit Credential)] ボタンをクリックします。「エンドユーザのクレデンシャルの管理」(P.88-11) を参照してください。</p>
[パスワードの確認 (Confirm Password、半角英数字のみ)]	<p>このフィールドは、LDAP 認証が使用可能な場合、表示されません。</p> <p>エンドユーザのパスワードをもう一度入力します。</p>
[PIN (半角数字のみ)]/[クレデンシャルの編集 (Edit Credential)]	<p>エンドユーザの Personal Identification Number (PIN; 個人識別番号) となる英数字を入力します。割り当てられたクレデンシャル ポリシーで指定されている、最小文字数（1 ～ 127 文字）以上を入力する必要があります。</p> <p>[クレデンシャルの編集 (Edit Credential)] ボタンは、このユーザをデータベースに追加した後で表示されます。このユーザのクレデンシャルを管理するには、[クレデンシャルの編集 (Edit Credential)] ボタンをクリックします。「エンドユーザのクレデンシャルの管理」(P.88-11) を参照してください。</p>

表 88-1 エンド ユーザの設定値 (続き)

フィールド	説明
[PIN の確認 (Confirm PIN、半角数字のみ)]	PIN をもう一度入力します。
[姓 (Last Name)]	エンド ユーザの姓を入力します。
[ミドルネーム (Middle Name)]	エンド ユーザのミドル ネームを入力します。
[名 (First Name)]	エンド ユーザの名を入力します。
[電話番号 (Telephone Number)]	エンド ユーザの電話番号を入力します。特殊文字として、(、)、および - を使用できます。
[メール ID (Mail ID)]	エンド ユーザの電子メール アドレスを入力します。
[マネージャのユーザ ID (Manager User ID)]	<p>エンド ユーザ マネージャ ID のユーザ ID を入力します。</p> <p>ヒント 入力するマネージャのユーザ ID は、エンドユーザと同じクラスタに存在していないものである必要があります。このため、Cisco Unified Communications Manager では、データベースにすでに存在するユーザ ID は入力する必要がありません。</p>
[部署名 (Department)]	エンド ユーザの所属部門の情報 (たとえば、所属部門の番号や名称など) を入力します。
[ユーザロケール (User Locale)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、そのエンド ユーザに関連したロケールを選択します。そのユーザ ロケールは、言語とフォントを含んだ、エンド ユーザをサポートする一連の詳細情報を識別します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、このロケールをエクステンション モビリティおよび Cisco Unified CM のユーザ オプションに使用します。Cisco エクステンション モビリティのログインでは、ここに指定されているロケールが、デバイスおよびデバイス プロファイルの設定よりも優先されます。Cisco エクステンション モビリティのログアウトでは、Cisco Unified Communications Manager は、デフォルト デバイス プロファイルに指定されたエンド ユーザ ロケールを使用します。</p> <p>(注) エンド ユーザ ロケールを選択しない場合は、Cisco CallManager サービス パラメータでデフォルト ユーザ ロケールとして指定されているロケールが適用されます。</p>
[割り当てられた PC (Associated PC)]	この必須フィールドは、Cisco IP SoftPhone ユーザに適用されます。
[ダイジェスト信用証明書 (Digest Credentials)]	<p>一連の英数字を入力します。</p> <p>ダイジェスト認証中に Cisco Unified Communications Manager は、ここで指定したダイジェスト信用証明書を使用して、電話機が提供するクレデンシャルを検証します。[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウでダイジェスト ユーザを選択すると、このフィールドに入力するダイジェスト信用証明書が電話機に関連付けられます。</p> <p>(注) ダイジェスト認証の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティガイド』を参照してください。</p>
[ダイジェスト信用証明書の確認 (Confirm Digest Credentials)]	ダイジェスト信用証明書を正しく入力したことを確認するために、このフィールドにそのクレデンシャルを再入力します。

表 88-1 エンド ユーザの設定値 (続き)

フィールド	説明
[デバイスの割り当て (Device Associations)]	
[制御するデバイス (Controlled Devices)]	<p>デバイスが関連付けられた後に、このフィールドには、エンド ユーザが制御する説明情報 (たとえば、MAC アドレスなど) が表示されます。</p> <p>このフィールドは、データベース内にユーザを作成した後で表示されます。デバイスをこのエンド ユーザに関連付けるには、[デバイスの割り当て (Device Association)] ボタンをクリックします。詳細な手順については、「エンド ユーザとデバイスとの関連付け」(P.88-15) を参照してください。</p>
[エクステンションモビリティ (Extension Mobility)]	
[使用可能なプロファイル (Available Profiles)]	<p>このリスト ボックスには、このエンド ユーザとの関連付けに使用できるエクステンション モビリティ プロファイルが表示されます。</p> <p>エクステンション モビリティ プロファイルを検索するには、[検索 (Find)] をクリックします。表示される [デバイスプロファイルの検索と一覧表示 (Find and List Device Profiles)] ウィンドウを使用して、必要なエクステンション モビリティ プロファイルを検索します。</p> <p>エクステンション モビリティ プロファイルをこのエンド ユーザに関連付けるには、プロファイルを選択し、このリスト ボックスの下にある下矢印をクリックします。</p>
[制御するプロファイル (Controlled Profiles)]	Cisco エクステンション モビリティに設定されたエンド ユーザに関連付けられた、制御されるデバイス プロファイルのリストが、このフィールドに表示されます。
[デフォルトのプロファイル (Default Profile)]	ドロップダウン リスト ボックスから、このエンド ユーザのデフォルトのエクステンション モビリティ プロファイルを選択します。
[プレゼンスグループ (Presence Group)]	<p>このフィールドには、プレゼンス機能を設定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスから、エンド ユーザ用のプレゼンス グループを選択します。選択したグループによって、エンド ユーザが監視できる対象が指定されます。</p> <p>[プレゼンスグループ (Presence Group)] のデフォルト値は、インストール時に設定された標準のプレゼンス グループです。Cisco Unified Communications Manager の管理ページで設定されたプレゼンス グループもドロップダウン リスト ボックスに表示されます。</p> <p>プレゼンス許可は、プレゼンス グループと連携して、グループ間のプレゼンス要求を許可またはブロックします。グループ間の権限の設定、およびプレゼンスをエクステンション モビリティと連携させる方法については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「プレゼンス」の章を参照してください。</p>

表 88-1 エンド ユーザの設定値 (続き)

フィールド	説明
[SUBSCRIBE コーリング サーチスペース (SUBSCRIBE Calling Search Space)]	<p>プレゼンス機能でサポートされている SUBSCRIBE コーリング サーチ スペースによって、Cisco Unified Communications Manager がエンド ユーザからのプレゼンス要求をルーティングする方法が決まります。この設定により、エンド ユーザのプレゼンス (SUBSCRIBE) 要求に対して、コール処理サーチ スペースとは別のコーリング サーチ スペースを適用できます。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスから、エンド ユーザのプレゼンス要求に使用する SUBSCRIBE コーリング サーチ スペースを選択します。Cisco Unified Communications Manager の管理ページで設定したすべてのコーリング サーチ スペースが、[SUBSCRIBE コーリングサーチスペース (SUBSCRIBE Calling Search Space)] ドロップダウン リスト ボックスに表示されます。</p> <p>ドロップダウン リストからエンド ユーザ用の別のコーリング サーチ スペースを選択しない場合、SUBSCRIBE コーリング サーチ スペースは、デフォルトで [なし (None)] に設定されます。</p> <p>この用途専用の SUBSCRIBE コーリング サーチ スペースを設定するには、すべてのコーリング サーチ スペースと同じようにコーリング サーチ スペースを設定します。コーリング サーチ スペースの設定方法については、「コーリング サーチ スペースの設定 (P.41-1)」を参照してください。</p>
[CTI からデバイスを制御可能 (Allow Control of Device from CTI)]	<p>このチェックボックスをオンにすると、ユーザがデバイスにログインしたときに AllowCTIControlFlag デバイス プロパティがアクティブになり、それによって Computer Telephony Integration (CTI; コンピュータ/テレフォニー インテグレーション) アプリケーションからのデバイスの制御が可能になります。ユーザがデバイスにログインするまで、この設定値は無効です。</p> <p>(注) [エンドユーザの設定 (End User Configuration)] の [CTI からデバイスを制御可能 (Allow Control of Device from CTI)] の設定値は、ユーザがログインするデバイスの AllowCTIControlFlag デバイス プロパティを上書きします。</p>
[クラスタ間のエクステン ション モビリティの有効化 (Enable Extension Mobility Cross Cluster)]	<p>このエンド ユーザが Cisco クラスタ間のエクステンションモビリティ機能を使用できるようにするには、このボックスをオンにします。</p> <p>Cisco クラスタ間のエクステンションモビリティ機能の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「Cisco クラスタ間のエクステンションモビリティ」の章を参照してください。</p>
[電話番号の割り当て (Directory Number Associations)]	
[プライマリ内線 (Primary Extension)]	<p>このフィールドは、エンド ユーザのプライマリ電話番号を表します。エンド ユーザは、電話機に複数の回線を設定できます。</p> <p>デバイスをエンド ユーザに関連付けると、関連付けられたデバイスに設定されている電話番号が、[プライマリ内線 (Primary Extension)] ドロップダウン リスト ボックスで使用可能になります。ドロップダウン リスト ボックスから、このエンド ユーザのプライマリ内線を選択します。</p> <p>システムが Cisco Unity Connection に統合されている場合、[関連リンク (Related Links)] メニューに [Cisco Unity ユーザの作成 (Create Cisco Unity User)] リンクが表示されます。</p>
[IPCC 内線 (IPCC Extension)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、このエンド ユーザの IPCC 内線を選択します。</p> <p>(注) このフィールドは、IPCC Express Installed エンタープライズ パラメータが [True] に設定されている場合にだけ表示されます。</p>

表 88-1 エンドユーザの設定値 (続き)

フィールド	説明
[モビリティ情報 (Mobility Information)]	
[モビリティの有効化 (Enable Mobility)]	<p>モバイル コネクトをアクティブ化するには、このチェックボックスをオンにします。モバイル コネクトを使用すると、ユーザが 1 つの電話番号を使用してコールを管理したり、デスクトップ電話機および携帯電話で進行中のコールをピックアップしたりできるようになります。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、ライセンスに対するトリガーが発生し、モバイル コネクト用にデバイス ライセンス ユニットが消費されます。また、このチェックボックスは [プライマリユーザデバイス (Primary User Device)] ドロップダウン リスト ボックスと連動します。</p> <p>[モビリティの有効化 (Enable Mobility)] チェックボックスをオンにした後で、[プライマリユーザデバイス (Primary User Device)] ドロップダウン リスト ボックスから付加デバイスを選択しない場合は、4 つの Device License Unit (DLU; デバイス ライセンス ユニット) が消費されます。この状況は、[ライセンスユニット計算 (License Unit Calculator)] ウィンドウの [Mobility Enabled End Users] 行に示されます。</p> <p>Cisco Unified Mobility を有効にした後で、[プライマリユーザデバイス (Primary User Device)] ドロップダウン リスト ボックスから付加デバイスを選択した場合は、2 つの DLU が消費されます。この状況は、[ライセンスユニット計算 (License Unit Calculator)] ウィンドウの [Mobility Enabled End Users] 行に示されます。</p>
[プライマリユーザデバイス (Primary User Device)]	<p>[プライマリユーザデバイス (Primary User Device)] ドロップダウン リスト ボックスは、[モビリティの有効化 (Enable Mobility)] チェックボックスと連動し、モバイル コネクトの付加デバイス用に消費されるデバイス ライセンス ユニットの数を制御します。</p> <p>[モビリティの有効化 (Enable Mobility)] チェックボックスをオンにした後で、Cisco Unified Mobility 専用のユーザに割り当てる付加デバイスを選択します。たとえば、ユーザが Cisco Unified Mobility 用の携帯電話の他に使用するデバイス (デスクトップ電話機など) を選択します。</p> <p>付加デバイスを選択する前に、次の点を考慮してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ドロップダウン リスト ボックスには、2 つ以上のデバイス ライセンス ユニット (DLU) を消費するデバイスだけが表示されます。 • Cisco Unified Mobility では、複数のユーザに同じデバイスを割り当てることはできません。そのため、ドロップダウン リスト ボックスには、割り当て可能なデバイスだけが表示されます。 • [モビリティの有効化 (Enable Mobility)] チェックボックスをオンにした後で、ドロップダウン リスト ボックスからデバイスを選択した場合は、2 つの DLU が消費されます。この状況は、[ライセンスユニット計算 (License Unit Calculator)] ウィンドウの [Mobility Enabled End Users (Adjunct)] 行に示されます。 • モバイル コネクトを有効にした後に Cisco Unified Communications Manager の管理 ページでデバイスを削除するか、割り当てを削除した場合は、デバイスまたは割り当ての削除後、2 つの DLU が消費されます。これは、[ライセンスユニット計算 (License Unit Calculator)] ウィンドウの [モビリティ有効エンドユーザ (Mobility Enabled End Users)] 行に示されます。
[モバイルボイスアクセスの有効化 (Enable Mobile Voice Access)]	<p>モバイル ボイス アクセスの Integrated Voice Response (IVR; 自動音声応答) システムにユーザがアクセスし、モバイル コネクト コールを発信したり、モバイル コネクト機能をアクティブ化または非アクティブ化したりできるようにするには、このチェックボックスをオンにします。</p>
[デスクピックアップの最大待機時間 (Maximum Wait Time for Desk Pickup)]	<p>携帯電話からデスクトップ電話機に転送されたコールを、ユーザがピックアップできる最大時間をミリ秒単位で入力します。</p>

表 88-1 エンドユーザの設定値 (続き)

フィールド	説明
[リモート接続先の制限 (Remote Destination Limit)]	ユーザが、デスクトップ電話機からコールを転送できる電話機の最大数を入力します。
[リモート接続先プロファイル (Remote Destination Profiles)]	このフィールドには、このユーザ用に作成されたリモート接続先プロファイルのリストが表示されます。特定のリモート接続先プロファイルの詳細を表示するには、リスト内のリモート接続先プロファイルを選択し、[詳細の表示 (View Details)] リンクをクリックします。
[CAPF 情報 (CAPF Information)]	
[割り当てられている CAPF プロファイル (Associated CAPF Profiles)]	このペインには、このユーザ用に設定した CAPF プロファイルのインスタンス ID が表示されます。プロファイルを表示または更新するには、インスタンス ID をダブルクリックするか、インスタンス ID をクリックして選択してから [詳細の表示 (View Details)] をクリックします。[エンドユーザ CAPF プロファイルの設定 (End User CAPF Profile Configuration)] ウィンドウが表示され、現在の設定が表示されます。 エンドユーザ CAPF プロファイルの設定方法については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド』を参照してください。
[権限情報 (Permissions Information)]	
[グループ (Groups)]	このリストボックスは、エンドユーザレコードが保存された後に表示されます。このリストボックスには、エンドユーザが属するグループが表示されます。 ユーザを 1 つ以上のグループに追加するには、[ユーザグループに追加 (Add to User Group)] ボタンをクリックします。[ユーザグループの検索と一覧表示 (Find and List User Groups)] ウィンドウが別ウィンドウで表示されます。ユーザを追加するグループを見つけて、そのグループの横にあるチェックボックスをオンにします。次に、ウィンドウの下部にある [選択項目の追加 (Add Selected)] をクリックします。[ユーザグループの検索と一覧表示 (Find and List User Groups)] ウィンドウが閉じ、[エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウが表示され、選択したグループが [グループ (Groups)] リストボックスに表示されます。 グループからユーザを削除するには、[グループ (Groups)] リストボックスでグループを選択し、[ユーザグループから削除 (Remove from User Group)] ボタンをクリックします。 グループを表示または更新するには、グループ名をダブルクリックするか、グループ名をクリックして選択してから [詳細の表示 (View Details)] をクリックします。[ユーザグループの設定 (User Group Configuration)] ウィンドウが表示され、現在の設定が表示されます。 ユーザグループの検索および設定の詳細については、「ユーザグループの設定」(P.90-1) を参照してください。
[権限 (Roles)]	このリストボックスは、エンドユーザが追加され、[グループ (Groups)] リストボックスにデータが入力され、ユーザレコードが保存された後に表示されます。このリストボックスには、エンドユーザに割り当てられている権限が表示されます。 権限を表示または更新するには、権限名をダブルクリックするか、権限名をクリックして選択してから [詳細の表示 (View Details)] をクリックします。[権限の設定 (Role Configuration)] ウィンドウが表示され、現在の設定が表示されます。 権限を設定する方法の詳細については、「権限の設定」(P.89-1) を参照してください。

追加情報

「関連項目」(P.88-17) を参照してください。

Cisco Unity Connection ボイスメールボックスの作成

[エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウの [Cisco Unity ユーザの作成 (Create Cisco Unity User)] リンクを使用すると、Cisco Unified Communications Manager の管理ページから個々に Cisco Unity Connection のボイスメールボックスを作成できます。

始める前に

- ボイス メッセージ用に Cisco Unified Communications Manager を設定します。
- 統合メールボックス機能を使用するために、Cisco Unity Connection サーバを設定します。該当する『*User Moves, Adds, and Changes Guide for Cisco Unity Connection*』の「Creating Multiple User Accounts from Cisco Unified Communications Manager Users」の章を参照してください。
- Cisco Unity Connection と連動するために、Cisco Unity Connection で AXL 接続を作成します (『*System Administration Guide for Cisco Unity Connection*』の「Managing the Phone System Integrations」を参照)。
- Cisco Unified Communications Manager の管理ページで追加しようとするボイス メッセージ ユーザに対する、適切なテンプレートと Class of Service (COS; サービス クラス) を定義したことを確認します。Cisco Unity Connection ユーザの場合は、該当する『*User Moves, Adds, and Changes Guide for Cisco Unity Connection*』を参照してください。
- [Cisco Unity ユーザの作成 (Create Cisco Unity User)] リンクを表示するには、デバイスおよびプライマリ内線番号をエンド ユーザに関連付けておきます。リンクは、[関連リンク (Related Links)] メニューに表示されます。
- 必要に応じて、この項で説明している手順を実行する代わりに、Cisco Unity Connection で使用可能なインポート機能を使用することができます。インポート機能の使用の詳細については、『*User Moves, Adds, and Changes Guide for Cisco Unity Connection*』の「Creating Multiple User Accounts from Cisco Unified Communications Manager Users」の章を参照してください。



(注)

[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウにも、[関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスに [Cisco Unity ユーザの作成 (Create Cisco Unity User)] リンクが表示されます。

手順

ステップ 1 [ユーザ管理 (User Management)] > [エンドユーザ (End User)] メニュー オプションを使用して、エンドユーザを検索します。

ステップ 2 プライマリ内線番号が、このユーザに関連付けられていることを確認します。



(注) プライマリ内線を定義したことを確認してください。定義していないと、[関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスに [Cisco Unity ユーザの作成 (Create Cisco Unity User)] リンクが表示されません。

ステップ 3 ウィンドウの右上隅にある [関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスから、[Cisco Unity ユーザの作成 (Create Cisco Unity User)] リンクを選択し、[移動 (Go)] をクリックします。[Cisco Unity ユーザの追加 (Add Cisco Unity User)] ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 4 [アプリケーションサーバ (Application Server)] ドロップダウン リスト ボックスから、Cisco Unity Connection ユーザを作成する Cisco Unity Connection サーバを選択し、[次へ (Next)] をクリックします。

ステップ 5 [ユーザテンプレート (Subscriber Template)] ドロップダウン リスト ボックスから、使用する登録者テンプレートを選択します。

ステップ 6 [保存 (Save)] をクリックします。

メールボックスが作成されます。[エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウで、[関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックス内のリンクが [Cisco Unity ユーザの編集 (Edit Cisco Unity User)] に変わります。これで、Cisco Unity Connection の管理に、作成したユーザが表示されるようになります。



(注) Cisco Unity Connection ユーザが Cisco Unified Communications Manager エンドユーザと統合された場合、Cisco Unity Connection の管理では [エイリアス] (Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [ユーザ ID (User ID)]、[名]、[姓]、[内線] (Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [プライマリ内線 (Primary Extension)]) の各フィールドを編集できません。これらのフィールドは、Cisco Unified Communications Manager の管理ページだけで更新できます。

追加情報

「関連項目」(P.88-17) を参照してください。

エンドユーザのパスワードの変更

Cisco Unified Communications Manager の管理ページでエンドユーザのパスワードを変更する手順は、次のとおりです。



(注) LDAP 認証が使用可能な場合、エンドユーザのパスワードは変更できません。

手順

ステップ 1 [ユーザ管理 (User Management)] > [エンドユーザ (End User)] メニュー オプションを使用して、エンドユーザを検索します。

[エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウに、設定情報が表示されます。

ステップ 2 [パスワード (Password、半角英数字のみ)] フィールドで、暗号化されている既存のパスワードをダブルクリックし、新しいパスワードを入力します。割り当てられたクレデンシャル ポリシーで指定されている、最小文字数 (1 ~ 127 文字) 以上を入力する必要があります。

ステップ 3 [パスワードの確認 (Confirm Password、半角英数字のみ)] フィールドで、暗号化されている既存のパスワードをダブルクリックし、新しいパスワードをもう一度入力します。

ステップ 4 [保存 (Save)] をクリックします。

追加情報

「関連項目」(P.88-17) を参照してください。

エンドユーザの PIN の変更

エンドユーザの個人識別番号 (PIN) を変更する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** [ユーザ管理 (User Management)] > [エンドユーザ (End User)] メニュー オプションを使用して、エンドユーザを検索します。
- [エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウに、設定情報が表示されます。
- ステップ 2** [PIN(半角数字のみ)] フィールドで、暗号化されている既存の PIN をダブルクリックし、新しい PIN を入力します。割り当てられたクレデンシャル ポリシーで指定されている、最小文字数 (1 ~ 127 文字) 以上を入力する必要があります。
- ステップ 3** [PIN の確認 (Confirm PIN、半角数字のみ)] フィールドで、暗号化されている既存の PIN をダブルクリックし、新しい PIN をもう一度入力します。
- ステップ 4** [保存 (Save)] をクリックします。
-

追加情報

「関連項目」(P.88-17) を参照してください。

エンドユーザのクレデンシャルの管理

エンドユーザのクレデンシャル (関連付けられた認証ルール、関連付けられたクレデンシャル ポリシー、パスワードの最終変更時間など) を変更または表示する手順は、次のとおりです。ユーザのクレデンシャルを編集できるのは、ユーザがデータベースに存在している場合だけです。

[クレデンシャル設定 (Credential Configuration)] ウィンドウで、割り当てられたクレデンシャル ポリシーと衝突する設定を保存することができません。

[クレデンシャル設定 (Credential Configuration)] ウィンドウの他の設定と衝突するような [クレデンシャル設定 (Credential Configuration)] ウィンドウの設定変更はできません。たとえば、[ユーザは変更不可 (User Cannot Change)] チェックボックスがオンの場合は、[ユーザは次回ログイン時に変更する必要あり (User Must Change at Next Login)] チェックボックスをオンにできません。

[クレデンシャル設定 (Credential Configuration)] ウィンドウには、イベントのおよその回数が表示されます。このフォームは、次に認証クエリーまたはイベントが発生したときに更新されます。

始める前に

データベースにエンドユーザを作成します。「[エンドユーザの設定値](#)」(P.88-1) を参照してください。

手順

-
- ステップ 1** [ユーザ管理 (User Management)] > [エンドユーザ (End User)] メニュー オプションを使用して、エンドユーザを検索します。
- [エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウに、設定情報が表示されます。

- ステップ 2** パスワード情報を変更または表示するには、[パスワード (Password、半角英数字のみ)] フィールドの横にある [クレデンシャルの編集 (Edit Credential)] ボタンをクリックします。PIN 情報を変更または表示するには、[PIN(半角数字のみ)] フィールドの横にある [クレデンシャルの編集 (Edit Credential)] ボタンをクリックします。
- ステップ 3** 適切な設定値を入力します (表 88-2 を参照)。
- ステップ 4** 設定値を変更した場合は、[保存 (Save)] をクリックします。

追加情報

「関連項目」(P.88-17) を参照してください。

クレデンシャルの設定値とフィールド

表 88-2 では、エンド ユーザおよびアプリケーション ユーザのクレデンシャルの設定値について説明します。これらの設定値は、アプリケーション ユーザまたはエンド ユーザのダイジェスト信用証明書には適用されません。関連する手順については、「関連項目」(P.88-17) を参照してください。

表 88-2 アプリケーション ユーザおよびエンド ユーザのクレデンシャルの設定値とフィールド

フィールド	説明
[管理者によるロック (Locked by Administrator)]	このアカウントをロックし、ユーザがアクセスできないようにするには、このチェックボックスをオンにします。 アカウントのロックを解除し、ユーザがアクセスできるようにするには、このチェックボックスをオフにします。
[ユーザは変更不可 (User Cannot Change)]	ユーザがこのクレデンシャルを変更できないようにするには、このチェックボックスをオンにします。このオプションは、グループ アカウントに対して使用します。 [ユーザは次回ログイン時に変更する必要あり (User Must Change at Next Login)] チェックボックスがオンになっている場合は、このチェックボックスをオンにできません。
[ユーザは次回ログイン時に変更する必要あり (User Must Change at Next Login)]	次回のログイン時に、このクレデンシャルの変更をユーザに要求するには、このチェックボックスをオンにします。このオプションは、一時的なクレデンシャルを割り当てた後で使用します。 [ユーザは変更不可 (User Cannot Change)] チェックボックスがオンになっている場合は、このチェックボックスをオンにできません。
[無期限にする (Does Not Expire)]	このクレデンシャルの変更をユーザに要求しないようにするには、このチェックボックスをオンにします。このオプションは、セキュリティの低いユーザまたはグループ アカウントに使用できます。 このチェックボックスをオンにしても、ユーザはいつでもこのクレデンシャルを変更できます。このチェックボックスがオフの場合、関連付けられているクレデンシャル ポリシーの有効期限の設定が適用されます。

表 88-2 アプリケーション ユーザおよびエンドユーザのクレデンシャルの設定値とフィールド (続き)

フィールド	説明
[ハック数のリセット (Reset Hack Count)]	このユーザのハック数をリセットして、[失敗したログイン試行によりロックされた時間 (Time Locked Due to Failed Logon Attempts)] フィールドをクリアするには、このチェックボックスをオンにします。カウンタをリセットすると、ユーザは、またログインを試行できるようになります。 ハック数は、クレデンシャルが不正なために認証に失敗すると増えます。 ポリシーで [ログイン失敗無制限 (No Limit for Failed Logons)] が指定されている場合、ハック数は常に 0 になります。
[認証ルール (Authentication Rule)]	このユーザのクレデンシャルに適用するクレデンシャル ポリシーを選択します。
[最終変更時間 (Time Last Changed)]	このフィールドには、このユーザのクレデンシャルが変更された最新の日時が表示されます。
[失敗したログイン試行 (Failed Logon Attempts)]	このフィールドには、成功した最終ログイン、管理者によるこのユーザ クレデンシャルのハック数のリセット、または失敗したログイン試行回数のリセット期間経過の後、失敗したログイン試行回数が表示されます。
[失敗した最後のログイン試行時間 (Time of Last Failed Logon Attempt)]	このフィールドには、このユーザのクレデンシャルでログイン試行が失敗した最新の日時が表示されます。
[管理者によりロックされた時間 (Time Locked by Administrator)]	このフィールドには、管理者がこのユーザ アカウントをロックした日時が表示されます。
[失敗したログイン試行によりロックされた時間 (Time Locked Due to Failed Logon Attempts)]	このフィールドには、失敗したログイン試行によってユーザ アカウントがロックされた最新の日時が表示されます。失敗したログイン試行によるロックアウトは、関連付けられたクレデンシャル ポリシーによって定義されます。

追加情報

「関連項目」(P.88-17) を参照してください。

エンドユーザのユーザ関連情報の設定

新しいエンドユーザを追加した後、そのエンドユーザに関連する追加情報を設定できます。各エンドユーザはこの情報を使用して、電話機の機能、マネージャの設定、アシスタントの設定、Cisco エクステンション モビリティ、Cisco Unified Communications Manager Auto-Attendant、および Cisco IP SoftPhone 機能を個別に設定することができます。

始める前に

エンドユーザがデータベース内で設定されていることを確認します。

手順**ステップ 1**

[ユーザ管理 (User Management)] > [エンドユーザ (End User)] メニュー オプションを使用して、アプリケーション プロファイルを設定する対象のエンドユーザを検索します。

[エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウが表示され、選択したエンドユーザの情報が示されます。

- ステップ 2** ユーザ ID をクリックします。
- ステップ 3** このエンド ユーザに対して Cisco Unified Communications Manager Assistant のマネージャの設定を行うには、[関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスから [マネージャの設定 (Manager Configuration)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
- このエンド ユーザの [マネージャの設定 (Manager Configuration)] ウィンドウが表示されます。Cisco Unified Communications Manager Assistant の設定の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「[プロキシ回線サポートのある Cisco Unified Communications Manager Assistant](#)」および「[シェアドライン サポートのある Cisco Unified Communications Manager Assistant](#)」の章を参照してください。
- このエンド ユーザに対してマネージャの情報を設定した後、このエンド ユーザの [エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウに戻ることができます。[マネージャの設定 (Manager Configuration)] ウィンドウの [関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスから [ユーザの設定に戻る (Back To User Configuration)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
- ステップ 4** このエンド ユーザに対して Cisco Unified Communications Manager Assistant のアシスタントの設定を行うには、[関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスから [アシスタントの設定 (Assistant Configuration)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
- このエンド ユーザの [Cisco Unified CM Assistant - アシスタントの設定 (Cisco Unified CM Assistant - Assistant Configuration)] ウィンドウが表示されます。Cisco Unified Communications Manager Assistant の設定の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「[プロキシ回線サポートのある Cisco Unified Communications Manager Assistant](#)」および「[シェアドライン サポートのある Cisco Unified Communications Manager Assistant](#)」の章を参照してください。
- このエンド ユーザに対してアシスタントの情報を設定した後、このエンド ユーザの [エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウに戻ることができます。[アシスタントの設定 (Assistant Configuration)] ウィンドウの [関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスから [ユーザの設定に戻る (Back To User Configuration)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
- ステップ 5** このエンド ユーザのユーザ特権レポートを表示するには、[関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスから [ユーザ特権レポート (User Privilege Report)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
- このエンド ユーザの [ユーザ特権 (User Privilege)] ウィンドウが表示されます。ユーザ特権レポートの詳細については、「[ユーザの権限、ユーザ グループ、およびアクセス権の表示](#)」(P.90-8) を参照してください。
- このエンド ユーザのユーザ特権レポートを表示した後、このエンド ユーザの [エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウに戻ることができます。[ユーザ特権 (User Privilege)] ウィンドウの [関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスから [ユーザの設定に戻る (Back to User)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.88-17) を参照してください。

エンドユーザとデバイスとの関連付け

エンドユーザにデバイスを関連付け、エンドユーザがそのデバイスのコントロール権を持つようにすることができます。電話機などの一部のデバイスは、エンドユーザが制御できます。CTI ポートなどのその他のデバイスは、ユーザとして指定されるアプリケーションによって制御できます。エンドユーザが電話機のコントロール権を持つ場合、その電話機の特定の設定値（たとえば、スピードダイヤルや自動転送）を制御できます。



(注)

デバイスが CTI 制御可能でない場合（H.323 デバイスなど）は、使用可能なデバイスのリストで、デバイス アイコンの横にアスタリスク（*）が表示されます。すべてのデバイスの関連付け動作は、機能が設定されているデバイス タイプに関係なく同一になっています。

始める前に

エンドユーザにデバイスを関連付けるには、そのユーザの [エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウにアクセスする必要があります。[ユーザ管理 (User Management)] > [エンドユーザ (End User)] メニュー オプションを使用して、エンドユーザを検索します。[エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウが表示された後で、デバイスを割り当てる手順は、次のとおりです。

新しいエンドユーザの追加を終了する前に、その新しいエンドユーザにデバイスを関連付けようとしてしないでください。必ず [エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウで [保存 (Save)] をクリックしてから、新しいエンドユーザにデバイスとの関連付けを追加してください。

手順

ステップ 1

[デバイスの割り当て (Device Associations)] ペインで、[デバイスの割り当て (Device Association)] をクリックします。

[ユーザデバイス割り当て (User Device Association)] ウィンドウが表示されます。

デバイスの検索

ネットワーク内にはいくつかのデバイスが存在する場合があります。Cisco Unified Communications Manager では、条件を指定して、特定のデバイスを見つけることができます。デバイスを見つける手順は、次のとおりです。



(注) Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、ブラウザセッションでの作業中は、検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、検索設定は保持されます。

ステップ 2

データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認し、[ステップ 3](#)に進んでください。

レコードをフィルタリングまたは検索する手順は、次のとおりです。

- 最初のドロップダウン リスト ボックスから、検索パラメータを選択します。
- 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから、検索パターンを選択します。
- 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



(注) 検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加すると、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した条件を削除するか、[フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックして、追加したすべての検索条件を削除してください。

ステップ 3 [検索 (Find)] をクリックします。

すべてのレコード、または一致したレコードが表示されます。[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウンリストボックスから別の値を選択して、各ウィンドウに表示する項目の数を変更できます。

デバイスの関連付け

ステップ 4 [デバイスの割り当て (Device association for)] ペインで、デバイス名の左側にあるボックスをオンにして、このエンドユーザに関連付けるデバイスを選択します。

ウィンドウの下部にあるボタンを使用して、エンドユーザに関連付けるデバイスを選択および選択解除できます。



(注) これらのボタンが機能するのは、前述のステップによるデバイス検索の結果として見つかったデバイスを選択および選択解除する場合だけです。



ヒント このエンドユーザにすでに関連付けられているデバイスを表示するには、[ユーザに関連付けられているデバイスを表示 (Show the devices already associated with user)] チェックボックスをオンにします。

ボタンとその機能について次に説明します。

- [すべてを選択 (Select All)] : このボタンをクリックすると、このウィンドウに表示されているすべてのデバイスが選択されます。
- [すべてをクリア (Clear All)] : このボタンをクリックすると、このウィンドウに表示されているすべてのデバイスの横にあるチェックボックスがオフになります。
- [検索のすべてを選択 (Select All In Search)] : このボタンをクリックすると、ウィンドウの [検索オプション (Search Options)] 部分に指定した検索条件と一致するすべてのデバイスが選択されます。このボタンによって、あらかじめ検索が行われ、一致するすべてのデバイスが選択されます。
- [検索のすべてをクリア (Clear All In Search)] : このボタンをクリックすると、ウィンドウの [検索オプション (Search Options)] 部分に指定した検索条件と一致するすべてのデバイスが選択解除されます。このボタンによって、あらかじめ検索が行われ、一致するすべてのデバイスが選択解除されます。
- [選択 / 変更の保存 (Save Selected/Changes)] : このボタンをクリックすると、選択したデバイスがこのエンドユーザに関連付けられます。
- [割り当てられているすべてのデバイスを削除 (Remove All Associated Devices)] : このボタンをクリックすると、すでにこのエンドユーザに関連付けられているすべてのデバイスの関連付けが解除されます。このボタンをクリックした後、このエンドユーザからすべてのデバイスとの関連付けを削除することの確認を求めるポップアップウィンドウが表示されます。確認するには、[OK] をクリックします。

ステップ 5 エンドユーザに割り当てるデバイスごとに、前述のステップを繰り返します。

ステップ 6 関連付けを完了するには、[選択 / 変更の保存 (Save Selected/Changes)] をクリックします。

- ステップ 7** ウィンドウの右上隅にある [関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスから、[ユーザの設定に戻る (Back to User)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
- [エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウが表示され、選択して関連付けたデバイスが [制御するデバイス (Controlled Devices)] ペインに表示されます。

追加情報

「関連項目」(P.88-17) を参照してください。

Cisco エクステンション モビリティ プロファイルの関連付け

Cisco エクステンション モビリティを使用すると、エンドユーザの電話機として一時的に表示されるように、Cisco Unified IP Phone を設定できます。エンドユーザが電話機にログインすると、そのエンドユーザのエクステンション モビリティ プロファイル (回線とスピードダイヤル番号を含む) が、その電話機上に置かれます。この機能は、エンドユーザに IP Phone が恒常的に割り当てられていない環境で主に使用されます。

エクステンション モビリティ プロファイルをエンドユーザに関連付けるには、そのエンドユーザの [エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウにアクセスする必要があります。[ユーザ管理 (User Management)] > [エンドユーザ (End User)] メニュー オプションを使用して、エンドユーザを検索します。エンドユーザに対して Cisco エクステンション モビリティを設定し関連付ける方法については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「Cisco エクステンション モビリティ」の章を参照してください。

追加情報

「関連項目」(P.88-17) を参照してください。

関連項目

- 「エンドユーザの設定値」(P.88-1)
- 「Cisco Unity Connection ボイスメールボックスの作成」(P.88-9)
- 「エンドユーザのパスワードの変更」(P.88-10)
- 「エンドユーザの PIN の変更」(P.88-11)
- 「エンドユーザのクレデンシャルの管理」(P.88-11)
- 「クレデンシャルの設定値とフィールド」(P.88-12)
- 「エンドユーザのユーザ関連情報の設定」(P.88-13)
- 「エンドユーザとデバイスとの関連付け」(P.88-15)
- 「Cisco エクステンション モビリティ プロファイルの関連付け」(P.88-17)
- 「アプリケーションユーザの設定値」(P.87-1)
- 「Cisco Unity または Cisco Unity Connection への管理者ユーザの追加」(P.87-8)
- 「アプリケーションユーザのパスワードの変更」(P.87-9)
- 「アプリケーションユーザのクレデンシャルの管理」(P.87-9)

- 「クレデンシャルの設定値とフィールド」 (P.87-11)
- 「アプリケーション ユーザとデバイスとの関連付け」 (P.87-12)
- 「LDAP システムの設定」 (P.11-1)
- 「権限の設定」 (P.89-1)
- 「ユーザ グループの設定」 (P.90-1)
- 「ユーザの権限、ユーザ グループ、およびアクセス権の表示」 (P.90-8)
- 「電話番号の設定」 (P.43-1)
- 「CTI ルート ポイントの設定」 (P.64-1)
- 「Cisco Unified IP Phone の設定」 (P.67-1)
- 「クレデンシャル ポリシーの設定」 (P.86-1)
- 「クレデンシャル ポリシーのデフォルトの設定」 (P.85-1)
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「クレデンシャル ポリシー」
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「アプリケーション ユーザとエンドユーザ」
- 『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「Cisco エクステンション モビリティ」
- 『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「Cisco クラスタ間のエクステンションモビリティ」
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「デバイスの関連付け」
- 『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「ユーザへのユーザ デバイス プロファイルの関連付け」
- 『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「プロキシ回線サポートのある Cisco Unified Communications Manager Assistant」
- 『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「シェアードライン サポートのある Cisco Unified Communications Manager Assistant」
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「Cisco Unity メッセージングの連動」
- 『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「プレゼンス」

関連資料

- 『Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド』
- 『User Moves, Adds, and Changes Guide for Cisco Unity Connection』